

# 姉妹都市交流



ワシントンD.C.

国際姉妹都市協会理事

ジョージアナ・マックロード 氏

教育随想

# 岡崎の教育

月報



平成16年5月1日

## 5月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
ワシントンD.C.国際姉妹都市協会理事 ジョージアナ・マックロード氏	
この人に聞く	2
「しらせ」先任飛行士 稲垣 米蔵氏	
羅針盤	2
家庭科指導員	名倉美千子
ふれあい	3
北野小	徳原 雅治
常磐中	上原 徳恵
特集	4
貴重な自然との出会い	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
土俵開き (昭和57年)	
この本を	8

私は姉妹都市協会にかかわる中で、「姉妹都市とは何でしょうか」と、質問を受けることが多くあります。二つの国や県、または岡崎市とニューポートビーチ市のように、姉妹都市とは二つの市が長期的な交流を公的に認めたものです。

私は、姉妹都市を次のように考えています。多くの交流方法がありますが、大きく次の六つの目的で友好が深められています。

- 一 商業発展
- 二 公的安全
- 三 教育や芸術
- 四 健康管理
- 五 環境問題
- 六 人道的救援

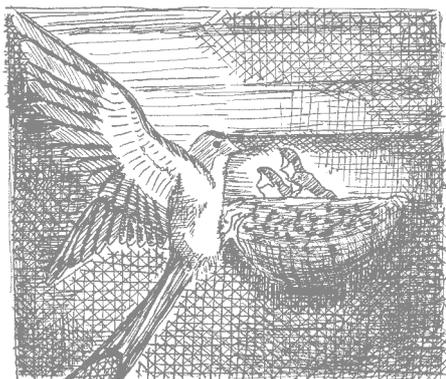
さて、私が勤める国際姉妹都市協会は、国際的な理解、協力をして互いの成長を奨励する考えの下、アイゼンハワー大統領が市民レベルでの外交を一九五六年に提唱して創設さ

れました。現在、ワシントンD.Cに本部を置き、アメリカと諸外国の姉妹都市の目的を成功に導くための奉仕活動をしています。また、私は二年前に、姉妹都市交流を監督する理事会の一員にも選任され、今日、一二三か国、二二〇〇団体の交流の一助もしているところです。

世界中の姉妹都市交流を成功に導く大切な要素として、市役所、市民団体、国際交流委員会、また、ロータリークラブ等を含んだ団体の支援や関与が不可欠です。これらすべての要素を含んで実施されているのが、岡崎市とニューポートビーチ市の交流です。だからこそ二十年以上にわたって素晴らしい交流が続けられているのです。

最後に、姉妹都市を通じた国際交

流で大切なことは、「相互の尊敬と理解を推進すること」にあると思います。異なる文化を持つ人々が、互いを尊敬しあうことで、共に生きていくことの重要性が理解されていくのではないのでしょうか。



# この人に聞く

ふるさとシリーズ



## 南極観測支援に挑む

砕氷艦「しらせ」 前任飛行士

稲垣 米蔵 氏

平成九年から三度目の南極観測支援に参加。砕氷艦「しらせ」搭載の大型ヘリコプターを操縦する飛行士（パイロット）として、観測隊員や物資の輸送という重要な任務を担う稲垣さん。昨年十一月から五か月に及ぶ任務では、飛行士の中でも飛行長を補佐する前任飛行士として活躍された。

初めて南極に踏み入ったときの感動をこう話された。

「太古の時代からほとんど人間が入



ることなく、緩やかな時間の中で作られた南極の山や岩、氷などに接すると、人間の人生が本当に短いものであることを痛感させられました。」岡崎南中学校時代からパイロットになりたいという夢を持ち続け、海上自衛隊に航空学生として入隊。「私の冒険の第一歩は家を出ることだったと思います。父を早く亡くした上、長男だったので、高校卒業とともに岡崎を離れました。母親に大変申し訳ないという思いと、知らない世界に飛び込む不安でいっぱいでしたが、やはり自分の夢を実現したいという気持ちの方が強かったです。」

「冒険をしたい気持ちは誰もが持っていると思いますが、その一歩を踏み出す勇氣があるかないかで、自分の人生が変わっていくものです。人の一生でその運命は宿命と違い、自分で切り開いていくことができるものだと信じています。」

冒険心についての思いは熱い。前任飛行士としての任務にとどまらず、艦内の新聞発刊や南極の氷の切り出し、運搬作業にも当たっておられる。

「今は、自分の仕事が微力ながら南極観測に役立っていることにとても充実感があります。」

稲垣さんは、昨年、岡崎の母校を訪れ、後輩に南極の様子を紹介された。後輩たちに、南極での感動を伝えたいとの思いからであった。

「南極大陸にある石は何億年もの年を重ねています。それに比べたら人間の一生は非常に短いものです。自分の夢、目標、やりたいことを見つけて積極的にトライしてほしいものです。途中で失敗してもその経験が新たな力となり、さらに前進できるようにしよう。自分の夢の実現に思いを込め努力することです。」

今の子供たちに向けてこのように語る稲垣さんは、再び十一月から始まる第四十六次南極観測支援で、新たに「しらせ」飛行長として活躍される。

氏名 いながき よねぞう  
生年月日 昭和三十三年四月二十九日  
住所 千葉県館山市上裏倉一九八六一

## 工夫する楽しさが

### 家庭での実践につながる

家庭科指導員 名倉美千子

A 小学校のB先生は、掃除の必要性と工夫する楽しさを身につけさせようと考えた。

家族からの聞き取りやインターネットでの調べを十分にした子供たちは、自信を持って発表していった。「この、ハンガーで作ったはたきの先をストッキングにすると、静電気ではこりが取れます。」

ひらひらするストッキングをなびかせた手作りはたきを手に、満足気な顔のC男。歓声をあげる子供たち。「オレンジ汁で床を磨くと、きれいになるよ。」

「みかんの皮を干して煮出した汁ね。先生も作ってきちゃった。」

すかさず黄色く濁った液体が入ったペットボトルを取り出した。子供たちは、なるほど簡単に作れそうだなという顔をして見入っている。



## ともに遊ぶこと

北野小 徳原 雅治

放課には子供たちと外で遊ぶ。このことは、私の日課であった。

A男は、休日にラクビーを習っていて、足も速く活発な子である。しかし、集団遊びは苦手であった。学校生活の中で、いつも一生懸命であったA男は、同時に、自分を追い込んでしまい、感情のコントロールを失う不器用さもあった。そのため、審判のいない集団遊びでのトラブルを敬遠してしまっていたのであった。

A男が私に慣れ、甘えん坊な一面を見せ始めた。彼をドッジボールに誘った。初めに、彼と同じチームで、やがて、敵チームへ私は入るようになった。もともと活発なA男は、みる



みる腕を上げ、同時にルール上の衝突にかかわる機会も増えた。放課終了時、A男が私に思いをぶつけることもあった。その度、早く独り立ちできることを願いつつ、「そうだよ」と受け止め続けた。こうした場面が減るのは、自分をコントロールできるように始めた二学期後半であった。

「先生、長放課のドッジに来てよ。」  
今では、私が誘われ、始業前の外遊びにもA男の姿がある。



## 土鈴いかがですか

常磐中 上原 徳恵

「こんにちは。土鈴いかがですか。」  
滝山寺の境内に響き渡る声の中でも、一際大きな声で呼びかけるA男の姿があった。

本校ボランティア活動の中で最も重要なのが、この土鈴販売である。滝山寺の節分会と鬼まつりに全校生徒が制作した土鈴を販売し、その売上金を米山寮や社会福祉協議会へ寄付しているのだ。



「僕たちが作った土鈴です。この土鈴は音がいいですよ。こちらの土鈴は鬼の表情がいいですよ。」

境内を売り歩き、次々と参詣者さんけいに声をかけるA男。その姿は輝いていて生き生きしている。

一年のときに知っていたA男は、どちらかといえば人の後について行動する控え目な性格であった。

三年生になって、生徒会顧問としてA男とかかわるようになった。A男が意欲を示したり、挑戦しようとしたりすることには、とにかく認めるように努めた。認めることは励ましとなった。

土鈴販売をやり遂げたA男が明るく話してきた。

「生徒会をやって自分は少し変わった。今までは人前で話したりやったりするのが苦手だったが、今はいろんなことに挑戦することが楽しい。」

「大根のへたにクレンザーを付けて流しを磨くときれいになるよ。」

楽しい雰囲気の中、実物や実演を見ながら次々に工夫が発表されていく。

「不用品を使うというのは、いいアイデアね。」

「それは、家でもやってみたの。」  
要所要所に先生のコメントが入る。環境に配慮した生活をさせよう、家庭での実践に結びつけようとする先生の意図が、子供に自然な形で伝わっていく。

最後にグループで教室ビカピカ計画について話し合った。発表された工夫を取り入れ、意欲満々の子供たち。あるグループでは、ジャガイモの皮でガラスを磨こう、いや新聞紙の方がいいと、もめていた。すると、「どれがいちばんいいか家でやってみてから決めよう。」

と、ジャガイモの皮派を一笑に付すことなく、家庭に目を向け前向きなアイデアを出して解決していこうとした子供たち。

押しつけられ、仕方なくやるというイメージの強い掃除。それを楽しむ、やってみたいものに変えたのは、B先生の工夫に着目した題材構想にあるだろう。そして、掃除の奥深さを学んだのは、子供ばかりでなく、参観された先生たち全員だったろう。

# 貴重な自然との出会い

## ～貴重種の宝庫 北山湿地～



▲北山湿地市民観察会

北山湿地は、岡崎市の東南、池金町地内にあり、湿地としては、市内で最も規模が大きく、数多くの貴重な動植物が生息している。環境省の「日本の重要湿地五〇〇」にも選定され、市民が自然の姿をじっくりと観察できるようにと、木道等も整備されている。

湿地に生息する動植物は、絶滅危惧種や準絶滅危惧種に指定されているものも多く、湿地固有の生態系をつくってきた。現在では、周辺からの雑木や雑草、土壌の侵入により、湿地を取り巻く環境が変化している。

そこで、市環境総務課自然保護班では、この貴重な自然遺産を保全するために、市民ボランティアの協力を得て、湿地内に繁茂しているイヌツゲやヌマガヤなどの除去、散乱している枯死倒木の除去、山道の整備を行ってきた。

山中小学校では、総合的な学習の時間を利用して、北山湿地の自然を観察したり、この湿地周辺に生息するギフチョウの調査をしたりしている。東海中学校でも、カワバタモロコの飼育を長年続けている生物部が、北山湿地を調査し、この自然を守ろうと計画をしている。岡崎に残された貴重な自然遺産ともいえる北山湿地に一度は足を運んでみたい。ここでは、四季折々の動植物に触れることができる。



▲早春の北山湿地（湿地A）



▲ギフチョウの観察



▲ 市民ボランティアによる木道の整備



▲ 湿地を荒らすヌマガヤの除去作業



▲ 春の湿地を青紫に彩る  
ハルリンドウ  
(春)



▲ うす桃色の可憐な  
トキンウ  
(夏)



▲ 紫色の美しい  
サワギキョウ  
(秋)

北山湿地に見られる  
貴重な動植物

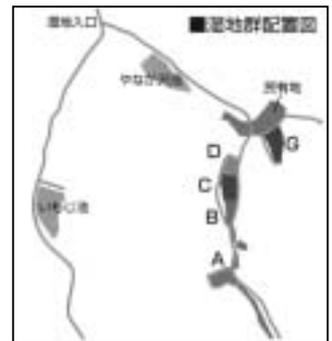
- ・ ギフチョウ
- ・ ハッチョウトンボ
- ・ ムカシヤンマ
- ・ ヒメタイコウチ
- ・ ホトケドジョウ
- ・ タゴガエル
- ・ トキンウ
- ・ サワギキョウ
- ・ ミカズキグサ
- ・ トウカイコモウセンゴケ
- ・ ミミカキグサ など



▲ 愛知県の天然記念物  
ヒメタイコウチ (夏)



▲ 日本産では最小の  
ハッチョウトンボ (夏)



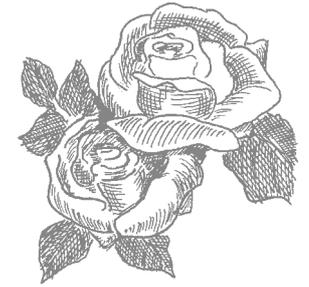
▼ 北山湿地地図



▲ 北山湿地を調査する生物部 (東海中)



写真資料提供  
・ 千賀敏之氏  
・ 自然保護班



● 教育最新情報

○ 虐待防止について

本年一月に、大阪府岸和田市で、両親に男子中学生が自宅に軟禁され、餓死寸前で保護される事件が発生した。

岡崎市は、中核市に移行したことに伴い、保健所が中心となって、岡崎市児童虐待等防止対策協議会を設立し、関係機関のネットワーク化を推進し、虐待ハイリスク家庭に対することで支援体制を強化している。

んとなく変だと思ったら虐待を疑うこと。

② 虐待の疑いがあれば、速やかに役職者と相談し、チームで援助を開始する。(担任、学年主任、養護教諭、生徒指導主任、管理職などでチームを組む。必要に応じて、地域の児童委員や民生委員も加える) また、虐待の事実をきちんと記録する。

③ チームでの情報集約で虐待が疑われた場合、学校長は、直ちに、西三河児童・障害者相談センター、岡崎市教育委員会へ相談する。

二、虐待の発見のポイント  
① 不審な傷や火傷等に気をつける。  
② 不衛生な状態が継続していかないに気をつける。  
③ 早く登校、家に帰りがたがらない、常習的な家出等の行動に注意する。

④ 体重の減少や栄養不良の状態が見られる。  
虐待にかかる事件が身近なところで起きないように、学校にできる役割をしっかりと把握し、対応する必要がある。

〔参考〕児童虐待防止法(抜粋)(平成十二年十一月二十日施行)

第二条 この法律において、「児童虐待」とは、保護者があるの監護する児童(十八歳未満の者)に対し、次に掲げる行為をすることをいう。

一 児童の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えること。

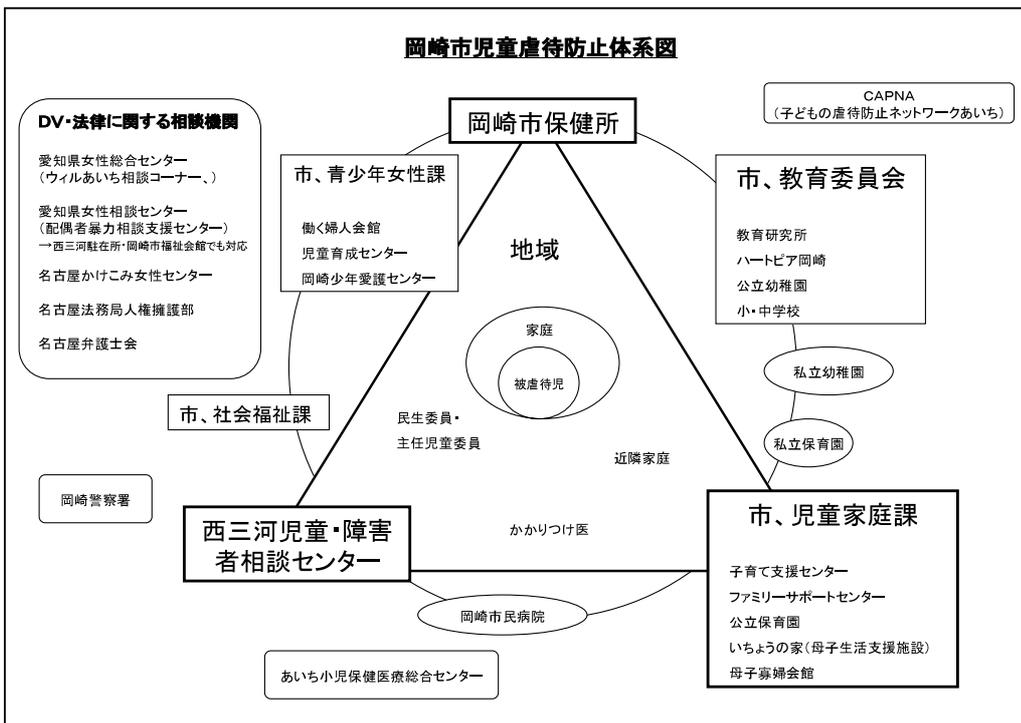
二 児童にわいせつな行為をすること又は児童をしてわいせつな行為をさせること。

三 児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置その他の保護者としての監護を著しく怠ること。

四 児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。

第五条 学校の教職員、児童福祉施設の職員、医師、保健

婦、弁護士その他児童の福祉に職務上関係のある者は、児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならない。  
第六条 児童虐待を受けた児童を発見した者は、速やかに、これを児童福祉法第二十五条の規定により通告(児童相談所に通告)しなくてはならない。



◆平成十六年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会長 平野 有行(竜海中)  
副会長 渡邊勝英(六ツ美西部小)

梶尾 長夫(甲山中)

石原 博文(城南小)

顧問 青木 宏氏(梅園小)

会計監査 鴨下 智幸(福岡小)

石原 雅充(竜南中)

庶務 河合 好文(南中)

金子 一元(小豆坂小)

庶務補佐 明保 俊通(矢作北中)

会計 江村 力(大樹寺小)

長坂 正延(葵中)

会計補佐 福應 謙一(連尺小)

評議員 山内博史(六ツ美北部小)

中根 洋(羽根小)

市川 直昭(山中小)

竹川 正彦(竜谷小)

兼平 義文(矢作北小)

杉本 佳子(美合小)

永田 邦雄(根石小)

浅井 稔(六名小)

山本 光昭(細川小)

菅沼 剛(東海中)

浅井 昭二(岩津中)

千賀 敏之(福岡中)

鈴木育男(六ツ美北中)

大久保慎一(北中)

石原比朗志(美川中)

〈小学校長会〉

会長 渡邊勝英(六ツ美西部小)

副会長 石原 博文(城南小)

金子 一元(小豆坂小)

会計監査 鴨下 智幸(福岡小)

庶務 兼平 義文(矢作北小)

会計 江村 力(大樹寺小)

会計補佐 福應 謙一(連尺小)

〈中学校長会〉

会長 梶尾 長夫(甲山中)

副会長 菅沼 剛(東海中)

河合 好文(南中)

会計監査 石原 雅充(竜南中)

庶務 明保 俊通(矢作北中)

会計 長坂 正延(葵中)

会計補佐 大久保慎一(北中)

〈専門委員会委員長〉

法制 長坂 正延(葵中)

理財 河村 喜美(城北中)

給与 金子 一元(小豆坂小)

文教 石原 雅充(竜南中)

進路 岩月 慎自(六ツ美中)

研修 江村 力(大樹寺小)

保体 鈴木育男(六ツ美北中)

福安 兼平 義文(矢作北小)

給食 千賀 敏之(福岡中)

広報 福應 謙一(連尺小)

生徒指導 明保 俊通(矢作北中)

◆平成十六年度研究発表表

●六月十一日 竜海中学校

「自ら学ぶ力を高める生徒の育成」

●六月二十二日 北野小学校

「学ぶ喜びを感じる子供の育成」

●九月二十八日 広幡小学校

「学ぶ喜びが育つ授業」

●十月十五日 岩津中学校

「生き生きと学ぶ生徒の育成」

●十月二十九日 河合中学校

「確かな学力を育む河中教育」

「発信力を高める学習指導の工夫を通して」

●十一月十二日 竜美丘小学校

「基礎学力を伸ばす学習指導」

「国語・算数の授業改善を通して」

●十一月十六日 福岡中学校

「目を輝かせ、自ら進んで活動する生徒の育成」

「生徒指導を基盤としたあじさいタイムによる「生き方」の研究」

◆平成十六年度教育委員学校訪問

●五月六日 愛宕小学校

●五月二十日 上地小学校

●六月十日 常磐中学校

●六月十七日 六ツ美中部小学校

●九月十六日 井田小学校

●九月三十日 葵中学校

●十月七日 恵田小学校

●十月二十八日 山中小学校

●十一月十一日 六ツ美北中学校

●十一月二十五日 矢作幼稚園

●一月二十日 梅園小学校

●二月三日 美川中学校

●二月十七日 男川小学校

◆平成十六年度県教委教職員課訪問

●六月二十九日 矢作南小学校

●十月二十五日 大門小学校

●その他に主事訪問を予定。

◆平成十六年度特別委員会(育課訪問)

●十月二十五日 大門小学校

●市民大学運営委員会

●月報「岡崎の教育」編集委員会

●教員の研修に関する委員会

●学校環境緑化推進委員会

●野外活動委員会

●情報教育推進委員会

◆その他の関係委員会等

●岡崎市就学指導委員会

●岡崎市中学校特級学級進路指導委員会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市いじめ不登校対策協議会

●行事・部活動研究委員会

●学校週五日制研究委員会

●特色ある学校づくり委員会

●郷土読本編集委員会

●教育課程第一研究委員会

●教育課程第二研究委員会

●現職教育委員会総会



▶現職教育委員会総会  
(六ツ美北中 四月十九日)

・カ  
ツ  
ト  
甲  
山  
中  
犬  
塚  
学

# 土俵開き

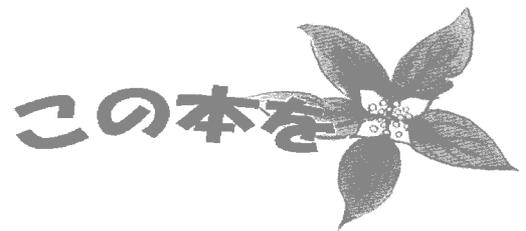
(昭和57年)

写真提供：竜美丘小

郷土力士の琴光喜関の活躍に沸く岡崎市には、写真の竜美丘小をはじめ、男川小、新香山中など土俵を持つ学校があり、児童・生徒たちの相撲に興じる声が聞こえてくる。

昔は、町のそこかしこで草相撲をとる子供たちの姿が見られたが、最近はずっかりそうした姿も減ってきた。しかし、竜美丘小では、朝潮関（現高砂親方）を招いての土俵開き以来、毎年秋場所が行われている。実際に相撲をとり、体と体をおつけ合う経験を通して、体を動かす楽しさや日本の文化と礼儀を学んでいる。

## フォトヒストリー 岡崎の教育



### この本を

- \* 良寛さま 松本 市壽 ￥1200  
グラフ社
- \* 心をのぞいて（復刻） 中村 諭 ￥1429  
高木書房
- \* 脳を育て、夢をかなえる 川島 隆太 ￥1200  
くもん出版
- \* 夫というもの 渡辺 淳一 ￥1470  
集英社

- \* 珠玉の子ら 山口 周行 ￥1100  
集英社

著者は47年前、夢と希望を持って知多の小学校に赴任したが、社会の大きなうねりの中で4か月しか教壇に立てなかった。本書は、そんな当時に回想し、慚愧の思いを綴ったものである。

小気味いい表現に引き込まれ、時を超えて情景が眼前に迫ってくる。文中、父親からの言葉として、「子どもが悪いのではない。家庭が悪いのでもない。環境のせいでもない。全ては先生であるおまえの責任だ（要約）」とある。非を外に求めないこの言葉の意味を、今一度かみしめてみたい。

親は誰でも、我が子の幸せを願わずにはいられない。個々の障害に応じた特別支援教育の体制への取組が岡崎でも始まった。LD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒などの教育的ニーズやその子供の親の心を理解していくことが、まず初めにあることを心に置きたい。

菖蒲が飾られる端午の節句がやってきた。菖蒲は葉草でもあり、節句では厄を避けるために用いられる。菖蒲は「尚武」に通じ、鎌倉時代以降盛んになった男子誕生を祝う風習である。子供の健やかな成長を願う気持ちは今も昔も変わらない。

## シ オ ス ア

朝の会で教室に響くあいさつ。「おはようございます」の声から一日が始まる。毎朝、よく耳を傾けると、声が微妙に違うことに気づく。よく目を向けると、いつもと表情が違う顔にはっとすることがある。朝いちばんから、子供の様子を見極められる教師でありたい。

水源を上流にある清らかな湧き水とする北山湿地。この水が、豊かな湿地を育んできた。新緑の季節からは、ヒメタイコウチやハルリンドウなどの貴重な動植物が見られる。この宝物を残していくためにも、湿地の生態系を知り、守る活動をしていきたいものである。